

平成26年度第1四半期報告の概況について

三井生命保険株式会社（代表取締役社長 有末 真哉）の平成26年度第1四半期報告の概況につきまして、以下のとおりお知らせいたします。なお、数値の詳細は、本日付ニュースリリース「平成26年度第1四半期報告」をご覧くださいませよう、お願い申し上げます。

【契約の状況（個人保険および個人年金保険）】

- ◇ 新契約年換算保険料は、個人保険は主力商品である総合保障型商品や医療保険の販売が好調に推移したこと、および個人年金保険は4月に発売した外貨建個人年金保険の販売が好調に推移したことを主因として、前年同期比**47.1%増の87億円**となりました。
- ◇ 解約・失効年換算保険料は、お客さまとのコミュニケーション強化に取り組んできた結果、前年同期比**8.9%減の53億円**、また解約・失効率は、前年同期から**0.06ポイント改善の1.14%**となりました。
- ◇ 保有契約年換算保険料は、医療保障等の第三分野および個人年金保険に関しては前年度末から増加したものの、全体では解約・失効・満期等による減少が新契約を上回っており、前年度末比**0.2%減の5,140億円**となりました。

【損益の状況】

- ◇ 保険料等収入は、一時払終身保険の販売が好調に推移したことを主因として、前年同期比**8.4%増の1,319億円**となりました。
- ◇ 基礎利益は、逆ざやと費差損益が前年同期より改善したものの、変額年金保険等の最低保証に係る責任準備金戻入額が減少したことにより、前年同期から**6億円減の94億円**となりました（最低保証に係る要因を除いた基礎利益は、同**21億円増の60億円**）。また、経常利益は、前年同期から**52億円増の83億円**、四半期純利益は、同**43億円増の45億円**となりました。

【主要指標の状況】

- ◇ 有価証券全体の含み益は、金利低下により国内公社債の含み益が増加したこと、および株価上昇により国内株式の含み益が増加したことを主因として、前年度末から**487億円増加し、3,950億円**となりました。
- ◇ ソルベンシー・マージン比率は、金利低下および株価上昇により、その他有価証券の含み益が増加したことを主因として、前年度末から**32.2ポイント増加し、680.7%**となりました。また、実質純資産額は、有価証券全体の含み益の増加を主因として、前年度末から**521億円増加し、7,616億円**となりました。

1. 契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕

(単位:億円、%)

区分	平成25年度 第1四半期累計期間	平成26年度 第1四半期累計期間	前年同期比 増減率
新契約年換算保険料	59	87	+ 47.1

(単位:億円、%)

区分	平成25年度 第1四半期累計期間	平成26年度 第1四半期累計期間	前年同期比 増減率
解約・失効年換算保険料	58	53	▲ 8.9
解約・失効率〔年換算保険料ベース〕	1.20	1.14	0.06 ポイント改善

(単位:億円、%)

区分	平成25年度末	平成26年度 第1四半期会計期間末	前年度末比 増減率
保有契約年換算保険料	5,149	5,140	▲ 0.2

- (注) 1. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)。
 2. 新契約には、転換による純増加を含んでいます。
 3. 解約・失効の数値は、失効後復活契約を失効と相殺せずに算出しています。

2. 損益の状況

(単位:億円、%)

区分	平成25年度 第1四半期累計期間	平成26年度 第1四半期累計期間	前年同期比 増減率
基礎収益	1,909	1,812	▲ 5.1
うち保険料等収入	1,217	1,319	+ 8.4
基礎費用	1,807	1,717	▲ 5.0
基礎利益①	101	94	▲ 6.8
逆ざや額	▲ 165	▲ 158	▲ 4.4
危険差益	275	252	▲ 8.5
うち最低保証に係る要因(注)②	62	34	▲ 44.8
費差損益	▲ 8	0	—
キャピタル損益	▲ 79	▲ 19	▲ 75.4
臨時損益	9	8	▲ 8.1
経常利益	31	83	+ 168.0
特別利益	0	0	▲ 82.4
特別損失	5	5	▲ 4.5
契約者配当準備金繰入額	37	38	+ 3.5
四半期純利益	1	45	+ 3,165.9

基礎利益(最低保証に係る要因を除く) ①－②	38	60	+ 54.9
---------------------------	----	----	--------

- (注) 「最低保証に係る要因」は、変額年金保険等における次の金額の合計額です。
 ・最低保証に係る一般勘定の責任準備金の繰入・戻入額
 (平成25年度第1四半期累計期間: 4.8億円、平成26年度第1四半期累計期間: 2.0億円)
 最低保証に係る一般勘定の責任準備金とは、変額年金保険等の最低保証リスクに備えて積み立てている準備金です。
 最低保証に係る一般勘定の責任準備金を繰り入れた場合は基礎利益を減少させる要因に、また、最低保証に係る一般勘定の責任準備金を戻し入れた場合は基礎利益を増加させる要因になります。
 ・最低保証に係る保険料収入から、年金開始等に際して最低保証のためにてん補した額を控除した額
 (平成25年度第1四半期累計期間: 1.4億円、平成26年度第1四半期累計期間: 1.4億円)

3. 主要指標の状況

(単位:億円、%)

区分	平成25年度末	平成26年度 第1四半期会計期間末	前年度末比 増減額
有価証券の含み損益(一般勘定)	3,462	3,950	+ 487
ソルベンシー・マージン比率	648.5	680.7	+ 32.2 ポイント
実質純資産額	7,095	7,616	+ 521
総資産	72,228	72,544	+ 316

以上